



活動の概要

5月26日の「吉縁起村」の案内看板設置が真庭いきいきテレビや新聞で度々報道され、私たち「吉」縁起村の活動が徐々に知られてきています。先日の相愛入口の小屋整備もテレビ・新聞社が取材に来られ、当日の山陽放送ラジオでは早速勝山支局の小畑氏が5分以上にわたり私たちの活動を紹介してくれました。アナウンサーも吉地区住民の活動の取り組みに驚きと感心の口ぶりで反応してくれていました。以下に最近の活動状況を報告いたします。

村おこしは第2ステージに入りました

第1ステージ 「まずは吉を知ってもらう」が主眼

- ①案内看板の設置とパンフレット作成
 - 報道関係が興味と関心を持ち5月末に真庭テレビや山陽新聞で大きく報道された。真庭市内で話題の一つになってきました。

- ②6月以降、日ごとに縁起村を訪れる人が増加
- ③太田市長から応援のメッセージをいただく

第2ステージ 「どうすればもっと知ってもらうか」

- ④広く知ってもらうため、ホームページを立上げた
 - yoshiengimura.com で検索を
- ⑤スポット案内板や周辺整備作業を展開する
 - 再訪問したいと思う人を増やすため。
- ⑥コミュニケーションが取れる場所や機会を作る
 - 温かい地元民との触れあいが良き思い出に

「縁起村」訪問の魅力を探す

吉には人を引きつける縁起のいいスポットが存在しており、他地区の人からは羨ましがられています。

9月24日山陽ラジオでは吉地区の地名 ○相愛 ○真賀 ○寿老 ○嬉石 が、また ○吉八幡神社の不倒の樹が紹介され、奥富良子アナも訪問してみたいと言っていましたね。ただ、最初はその数が増えますが、さらなる魅力が無いと2回目を訪れたいとは思いませんよね。そこで旅の一番の思い出はその場所とお土産そしてそこに住む人たちとの触れあいだと言われます。今その訪問記念となる品の作成について協議しているところです。



レーザー彫刻の作品例
材質 檜で焼きました

一例を挙げますと、左の写真にあるような木札「♥吉縁起村」をレーザー彫刻機で作成し、ストラップにしてはどうかとかイ草を活用した品を記念品として販売してどうか、など意見が提案されています。その他、陶芸をされている方もおられ、訪問者にはそれなりの思い出づくりのお土産が考えられています。近日紹介できるようにしたいですね。

相愛入口の小屋整備



9月24日(火) 林の黒田さんにご指導をいただき相愛入口の小屋の改修工事に取り組みました。

平日での作業のため、参加者は6人でしたが、黒田さんの適切なお助言と木工機械のお陰で午前中で作業は終了しました。落合振興局から中川参事もお越しになって作業を見ていただきました(最左側)。中川参事からは数度にわたって面談し、活動のための補助金確保について、また多くのお助言をいただきました。いずれにしても行政と一緒に地域おこしに取り組むことが大きな成果に繋がっていくと実感しています。この作業については3社が取材に来られ、真庭いきいきテレビや山陽新聞・テレビで放映されるそうです。作業は内装を整えて完成する予定です。多くの訪問者がここをご利用いただけたら嬉しい限りですね…。

「縁起村案内処」看板の設置へ…

活動の具体的な形が徐々に現れていますが、来訪者の立場から考えると、ただ見て回るだけではなく、水分の補給所やトイレは…？そこを訪れた温かい触れあいや記念品など心に残るものが無ければリピーター(再来者)にはなってくれません。

課題は山積ですが、これからも多くの訪来者に立ち寄っていただける場所として、林の石坂商店様にご無理をお願いして「案内処」として看板設置の許可をいただきました。本当にありがたく、感謝申し上げます。

「縁起村案内処」の看板製作は大倉章義氏(出雲大社神目支教会)に刻字を依頼しております。20年ほど前に鶴山支教会を訪れた経験もある方で、吉とのご縁も無いわけではありません。看板設置は今しばらくお待ち下さい。皆様、特に女性の方々のご意見とご支援をどしどしお寄せ戴きましたら幸いです。